

鮫川村



村民憲章

- 一、自然に親しみ、環境を整え、美しく住みよい村をつくりましょう。
- 一、教養を高め、伝統を重んじ、文化の香り高い村をつくりましょう。
- 一、健康で働き、きまりを守り、心のふれあう福祉の村をつくりましょう。
- 一、資源を活かし、創意と努力を重ね、豊かな村をつくりましょう。
- 一、協同と連携の意識を深め、希望と活力にみちた村をつくりましょう。



村の花 / やまゆり



村の木 / しらかば



村の鳥 / きじ



多彩な「つながり」を大切に 「まめな暮らし」で未来をきづく

豊かな自然の中で、助け合いながら
里山的生活文化をつなぐ鮫川村。
ここは等身大で持続可能なライフスタイル
「まめな暮らし」を追求する村です。

まめな暮らしとは、世代を超えた
文化継承、自然との共生、地域の和など、
村内外におよぶ細やかな「つながり」を
大切にしたい生き方のこと。

この村では人と人、人と自然、
人と現代社会といった多彩な絆を生かし、
未来へつながるような
コミュニティづくりが進められています。

村のあゆみ

鮫川村には壇ノ岡遺跡をはじめ、縄文時代の遺跡、住居跡、
出土品が数多くあり、当時の集落や生活の様子をうかがうこ
とができます。古代、この地域は白河郡に属し、その後石川
荘の成立によって、中世にはこれに属しました。鮫川村の地に
根を下ろした石川一族の赤坂氏は、14～15世紀ごろに転じ
て白川氏の勢力下に入りますが、16世紀半ばには常陸国から
白川領に伸びてきた佐竹氏の麾下に属し、関ヶ原合戦後の佐
竹氏の秋田転封に従って赤坂の地を去りました。近世の鮫川
村地域は白川郡に編入され、幕領、棚倉藩領などを経て幕末・
明治維新を迎えました。明治22年の市制町村制施行に伴い、
赤坂中野・赤坂東野・赤坂西野・西山・石井草・富田・渡瀬の7
村が合併して誕生した鮫川村は、136年にわたり、村名と村
域が受け継がれています。

村民の歌

作詞：石田卯子八
作曲：岡部富士夫

阿武隈の山なみつづく みどり立つ村
白樺はかぜにそよぎて
さわやかな人の心よ
ああここにひらく
かぎりなき希望 世代を継ぎて
鮫川村をわれらおこさん

はる 遥かなる起き伏す峯の うるわしき郷
山ゆりはさ霧にぬれて
香ぐわしき人の情よ
ああここにきづく
もろ人むつみて たつき豊かに
鮫川村をわれらたたえん

村長あいさつ



鮫川村長
宗田雅之

ふるさと鮫川村

鮫川村は福島県の東側を縦断する阿武隈高地の南部に位置する中山間地域です。標高が高く、夏でも比較的涼しく過ごすことができます。畜産をはじめとした農林業が盛んで、昔ながらの里山景観を村民全体で守り続けている自然豊かな村です。

鮫川村は阿武隈川の源流地域にあたり、清らかな水と豊かな森林に囲まれています。代表的な景観である強滝や江竜田の滝は、迫力ある水流と森の緑が織りなす姿で訪れる人々を魅了してきました。朝日山の登山道では野草や鳥のさえずりに触れられ、籠山公園のヤマユリやアジサイ、モミジなどが里山に彩りを添えています。渓谷や源流、高原と森が一体となり、鮫川村ならではの自然景観を形づくっています。

鮫川村は地域資源を活かした農業や観光にも力を注いでいます。遊休農地の解消を目的に大豆の栽培を推進し、収穫された大豆は直売所「手・まめ・館」で味噌や納豆、きな粉、豆腐などに加工販売されています。これらの農産物には「ゆうきの郷土」で生産された良質な有機たい肥が用いられ、健康で安全な食を支えています。また、湯の田温泉「さざり荘」では、村内で伐採された木材を燃料とする薪ボイラーで源泉を加温しており、その泉質の良さと環境に配慮した取り組みにより、多くの来訪者に親しまれています。

一方で、鮫川村も全国と同じく人口減少や少子高齢化という大きな課題に直面しています。こうした状況を受け止めつつ、村の最上位計画である「鮫川村デジタル田園都市構想総合戦略」に基づき、地域資源を生かした産業振興や人材育成、関係人口の拡大に取り組みながら、先人が築いてきた自然や文化を次世代へと引き継ぎ、未来へと発展させていく村づくりに取り組んでまいります。

村章

鮫川村の『さ』の字を図案化したもので、
村民の「融和」と「団結」を表し、明るく
豊かな村づくりに着実に進む『鮫川村』を
象徴したものです。



昭和47年11月21日制定

村の位置



鮫川村では、村づくりの基本理念にも盛り込まれている「まめで達者な村づくり」の考え方を柱としながら、村民や村内環境などに関わるさまざまな施策を通してその実現を目指しています。

「まめで達者な村づくり」推進体系図

健康・生きがいづくり、高齢者福祉

健康づくり事業

- 筋力づくり教室の開催
- 地区ごとの栄養教室・健康相談会
- 地区支援団体交流会・リーダー研修会の開催 など

高齢者福祉の事業

- 高齢者福祉の充実(高齢者居住環境の整備、見守り体制、居場所づくりなど)
- 新たな雇用の場の創出

子育て支援・定住環境の整備

子育て支援事業

- 学校給食無償化
- 子ども家庭センターの運営(子育てに関する相談受付など)
- 放課後児童クラブの運営
- 乳幼児の紙おむつ支給

居住環境の整備

- 村営住宅の整備
- 空き家を活用した住宅改修事業
- 道路・住宅・交通などインフラ面の整備

情報通信施設の整備

- Wi-Fi環境の整備
- テレワーク施設の整備

子どもセンター・小・中学校

食農教育の推進

地産地消・旬菜旬食の学校給食

- 米飯給食の拡大および村内産食材の導入推進
- 学校教育と公民館事業における生産者と子どもたちの交流

食料自給率の向上
農業の6次産業化

特産品の開発

鮫川ブランド品の開発

- 大豆加工品

商工会との連携

交流人口・関係人口の拡大

体験・交流事業の積極的な受け入れ

- 交流人口の増加による地域経済の活性化、地域づくりの促進
- 村の魅力のPR・情報発信の場
- 地域資源の発掘
- 関係人口創出コーディネーターの設置
- 草刈りボランティア育成
- 保育園留学

定住人口の増加

まめで達者な村づくり

大豆の栽培奨励

- 村が奨励する大豆品種の全量買い上げ
- 栽培者研修会の開催



地域の食の見直し、地産地消の推進

特産品の開発・学校給食への活用

まめで達者な村づくり事業の拠点施設『手・まめ・館』の運営助成

- 農産物などの受託販売(直売)
- 大豆製品(納豆・豆腐・味噌・きな粉・豆菓子など)の製造・販売
- 農産物の宅配(給食センター・子どもセンター・個人注文者など)
- 学校給食飯米の加工販売 など

「まめで達者な村づくり」では、「食」と「農」を基本としたこれらの事業をもとに、自立できる村づくりをすすめるため、さまざまな事業に取り組んでいます。

「さめがわプライドの発足」

村で農業を営む若き担い手が「農業で村を元気にしたい」「地域の魅力を発信したい」との思いで結成したチームです。村が抱える農業者の高齢化や後継者不足、子どもの減少が課題となる中、農業の魅力を発信し、1人でも多くの人に鮫川村を知ってもらい観光客や移住者の増加につなげるため、農産物の直売会やイベントの開催などに取り組んでいます。メンバーは、ウドや長芋、オーガニック野菜、イチゴ栽培、酪農などを手がけている生産者です。生まれ育った故郷の土と豊かな自然に誇りを抱き、天と地の恵みを全身で受け止め、磨きをかけてこの鮫川村を後世につなげます。



遊休農地の解消・農業の振興

資源循環型農業の推進

- 農薬や化学肥料の使用を減らした安心・安全な農産物の生産
- 村の自然環境を生かした農産物の流通による農業の振興
- たい肥センターにおける有機たい肥・薪の製造販売
- エコファーマー、特別栽培農産物の認定
- 新規就農支援

鮫川村バイオマス
ヴィレッジ構想

オーガニックビレッジ宣言
ゆうきの里づくり
(特別栽培農産物)ブランド

農村(里山)景観の維持・保全

中山間地域等直接支払制度の活用

- 農地や農道、水路などの維持管理活動
- 地域の特色・資源を生かした地域の住民による地域づくり活動

館山公園の整備

- 村中心部の活性化や商店街の振興
- 村民憩いの場
- 森林環境学習(体験学習)の場
- 村づくり・地域づくりのシンボル

森林環境基金事業
(森林環境税)



▲大豆の種を蒔く小学生



▲小学生米づくり体験



中学生メタバース体験会

▼ロードレース大会(鹿角平で開催)



新規就農フェア(来場者対応をする若手農業者)▼

鮫川流SDGs

S 鮫川で D 大豆作って G 元気な S 村民

関連するSDGs



- ▶ 国内の大豆の自給率は、わずか7%(サラダ油などの原料となる油糧用を含む)
- ▶ 鮫川村で作る大豆製品の原料は100%村内産
- ▶ SDGsが叫ばれる以前から、鮫川村では既に循環型農業への取り組みを実践



▶ I 地方に仕事をつくる

地域ブランド「まめな暮らし」で稼げる村づくり



小学生の大豆栽培体験授業



奥久慈街道サイクリング

人口減少の著しい本村では、新規産業創出が重要であると考えています。そこで村はマルチワーカーを村に呼び込み新たな産業創出人材の確保を図るため、特定地域づくり事業協同組合の設立を支援し、令和6年10月より高齢化や担い手不足など、村の将来の課題を解決し、誰でも生きがいをもって暮らせる地域を目指して事業を実施しています。

また、農業条件が厳しい中山間地域において、有機農業を軸にした「付加価値の高い農業」を目指す取り組みを進めています。有機農業は高収益が期待される一方で、収量や品質が不安定なため導入が進みにくい現状があります。農産物の産地間競争を勝ち抜くブランド力を高めるため、村は令和7年度より中山間地域向けの有機農業マニュアルの作成に県内で初めて着手しています。

さらに、村内の農業者・事業者・住民すべての人が関わり、地域全体で有機農業の生産から消費までを一貫して行う取り組みを推進するため、令和7年11月に「オーガニックビレッジ宣言」を行い、村の財産である里山景観と水を守りながら持続可能な村づくりを目指しています。

観光地である鹿角平観光牧場についてもアクセスを向上し、観光客及びサイクリストの誘客を図るために周辺村道の改良工事を実施しています。

農業に励む村民の様子

これまで積極的に進めてきた鮫川流の「まめな暮らし」を活かした村づくりを今後も継承し、さらに発展させ、村全体を地域ブランドとして確立する村づくりを進めています。



オーガニックビレッジ宣言



ゆうきの郷土



スマート農業(あいがもロボット)

鹿角平観光牧場



▶ II 人の流れをつくる

「つながり」を活かす村づくり



「さめがわむらぶ」ファンミーティング

人と人、人と地域、都市と農村など多様な「つながり」を活かし、支え合いながら生きがいと夢を持ち、自己実現できる村づくりを進めています。



移住相談会の様子



地域力創造アドバイザー事業の様子



よろず案内/休憩所



保育園留学



こどもセンター「さつまいも掘り」

幼保連携型認定こども園「さめがわこどもセンター」では、都市部の子育て世代を受け入れることで、長期的な交流人口の拡大と経済流入による村内経済の活性化を目的に、令和6年7月から「保育園留学」を開始しました。短期的にさめがわこどもセンターに通わせ村の子どもたちと交流するとともに、保護者は宿泊先や村内施設においてリモートワークや農業体験ができます。

また、地域活性化起業人制度や地域力創造アドバイザー制度を活用し、産学官民など多様な主体が、地域外の主体を巻き込みながら、村の施策を連携して取り組んでいます。

さらに、関係人口の創出拡大を図るため、令和6年6月に関係人口創出アプリ「さめがわむらぶ」を開発し、地域ポイント機能を導入することで、新たな地域人材の発掘や地域力の向上を図るための施策を展開しています。併せて、関係人口創出コーディネーターを2名配置し、地域外の方が村と関わりをもてる“関わりしろ”を増やすため、精力的に活動しています。

▶ III 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

「こどもまんなか」を実現する村づくり



学校給食の様子



給食ミールキット開発プロジェクトチーム



米づくり体験授業（稲刈り）

子どもがいるからこそ村が継続できることを再認識し、「こどもまんなか」の村づくりを進め、子どもたちが鮫川で生まれ育ってよかったと思えるよう、大人たちが常に本気で子どものことを考えて行動する村づくりを進めています。



GIGAスクールの様子



米づくり体験授業（田植え）



命のふれあい教室



ママカフェ

次世代を担う子どもたちの教育環境の整備は大切です。令和5年11月より、さめがわこどもセンターおよび鮫川小・中学校の給食費無償化を開始しました。学校給食においては、過去に全国学校給食優良団体として文部科学大臣表彰を受賞するなど、特に食育と地産地消に力を入れています。令和7年8月には給食のおいしさを村内外に発信するため、給食ミールキット開発プロジェクトチームを設置し、官民連携で学校給食の充実に取り組んでいます。

また、子どもたちの教育の質を向上するため、GIGAスクール構想に基づき、1人1台の学習用タブレット端末を配備するとともにICT支援員を導入し、デジタル教育の支援を図っています。さらに、郷土愛を育む学習活動として、米づくりや田んぼの生き物調査などを実施することで、村の特性を活かす特色ある「ふるさとキャリア教育」を推進しています。

子育て支援においては、相談体制の充実を図るため、令和6年11月に母子手帳アプリを導入し、子育て世帯が村で安心して子どもを生み育てることができ、多様な家庭環境に応じたきめ細やかな支援が充実した村づくりを進めています。

これら一貫した支援を図るため、「健やかな人をみんなで育む村づくり」を基本目標に子どもたちが自然の中で悠々と遊び学べる環境に特化した魅力ある義務教育学校開校に向けて検討を進めています。

▶ IV 魅力的な地域をつくる

「人が集まる」美しい村づくり



ゲートボールを楽しむ様子

基幹産業である農業を村づくりの中心に据え、活力あふれる村づくりを進めるとともに、本村ならではの地域特性・資源を活かし、多くの人が集まる美しい(美味しい)村づくりを進めています。



伝統行事「宝引き」



夏季球技大会ソフトボール競技



草刈り応援隊「美活動刈上げ鮫」



村民の店「すまいる」

人口減少や高齢化等により地域の担い手が不足しつつあります。地域景観維持活動として、令和5年度に草刈り応援隊「美活動刈上げ鮫(ジューズ)」を発足しました。村内外の人々が互いに協力しながら、里山の環境維持に取り組んでいます。

交通不便地域や高齢者などの交通弱者に対して、通院や買い物、社会参加を支えるため、令和5年11月から村内全域をカバーし、自宅前から乗車できるドア・ツー・ドア方式のデマンド交通の実証運行を開始しました。令和7年10月からさらなるサービス向上を目指し、本格運行を開始しています。

また村民の店「すまいる」では移動販売車による買い物弱者への支援を通じ、利便性の向上を図っています。

防災分野においては、地域住民が安心して住み続けられる環境を創出するため、令和6年度に福島県防災アプリや消防団専用アプリを導入し、デジタル技術を活用した地域防災力の強化に取り組んでいます。



消防訓練の様子

魅力満載！ ぐるっとの 鮫川

山々に囲まれた自然豊かな鮫川村には、さまざまな名所や「まめな手仕事」が生み出した美味しい特産品がたくさんあります。魅力たっぷりの鮫川村を巡って、美しい自然と人々のぬくもりに触れてみませんか。



たてやまこうえん 館山公園

村の史跡「赤坂館」の跡地を利用した、村民手作りの公園です。春は桜や水仙、初夏はニッコウキスゲやアジサイなど、季節ごとに多彩な花が咲き誇ります。中でも夏に咲く白く美しいヤマユリは見事です。

所 鮫川村大字赤坂中野字館山内



てんぐばし 天狗橋

天狗が架けたと言い伝えられる、長さ7.9m、幅4mの大きな石橋。イヌブナやアカシデが繁る周辺には夏でも涼気が漂います。カタクリやニリンソウが咲く春も魅力的。

所 鮫川村大字赤坂東野字蔵ノ草地内

こわだき 強滝

強滝は国道349号沿いに約2kmにわたって広がる急流で、岩と水の美しい造形美が見どころ。滝の水流によって何万年もの時間をかけて岩が穿たれた珍しい「罅穴」があり、村の指定文化財になっています。上流から下流まで約1.3kmにわたり整備された遊歩道沿いには30カ所以上の罅穴があり、橋付近では30cm以上の大きな罅穴を複数見ることができます。

所 鮫川村大字赤坂東野字前田～大字西山字強滝内

かのつのだいら 鹿角平観光牧場

約80haの敷地内にはなだらかな牧草場が広がり、予約制のキャンプ場やバーベキュー施設、天文台などを併設しています。標高708mに位置する天文台は、視界が360度開けた天体観測スポット。利用の際は事前予約が必要で、インストラクターと一緒に無料で星空観察が楽しめます。

所 鮫川村大字青生野字々々麦343

TEL 0247-48-2010

天文台の予約

TEL 0247-49-3113



えりゅうだ 江竜田の滝

久慈川支流の渡瀬川と大戸中川が合流する渓谷にある、大小さまざまな滝の総称です。清冽な流れが鮮やかに彩られる新緑や紅葉の季節は必見です。

所 鮫川村大字渡瀬字前ノ沢内

ひうちいし 火打石のしだれ桜

樹齢400年を超える鮫川村を代表する桜です。樹高は20mあり、笠のように広がる枝ぶりの良さが特徴。開花時の景観は圧巻です。

所 鮫川村大字赤坂西野字火打石内



自然

まざかのうそんこうえん 真坂農村公園

橋の架かる池や小さな清流が広がる公園です。高さ5m、幅6mの「取上石」が安産の守り神として奉られており、この石を酒で洗い清めながら夫婦でお参りすると、子宝に恵まれ、安産になるという伝説が伝わっています。

所 鮫川村大字赤坂中野字取上内



土産・ 宿泊処

鮫川村農産物加工・直売所 手・まめ・館

村内でとれた新鮮な野菜や特産品などを販売する直売所や、地元食材を使用した食堂があります。大豆加工品を製造する加工所も併設しており、味噌や豆腐などを買うことができます。

所 鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作 116

TEL 0247-49-2556



湯の田温泉村民保養施設 さざり荘

村の日帰り入浴施設。間伐材などを活用した薪ボイラーにより源泉を加熱。化石燃料の消費をおさえた環境に優しい施設です。(アルカリ性単純泉加水なし)

所 鮫川村大字赤坂東野字広畑 199-2

TEL 0247-49-2205



みんなの 村民の店 すまいる



弁当や総菜などの食品や日用雑貨を取りそろえたスーパー。買い物弱者支援として、地域への宅配や移動販売も行っています。店内のオープンスペースは、誰でも気軽に利用できます。

所 鮫川村大字赤坂中野字新宿 64-1

TEL 0247-57-6901

えごま味噌らーめん



農家民宿

四季折々の里山の暮らしを体験できる農家民宿。村内には現在6軒の農家民宿があり、宿泊だけでなく、村の生活を体験できるメニューをご用意しています。



お食事処・温泉旅館 結び

5～6名で泊まれる和室のほか、洋室も備える温泉宿泊施設。食事処だけの利用も可能で、鮫川村産のえごまや味噌を使った「えごま味噌らーめん」などが味わえます。

所 鮫川村大字赤坂東野字広畑 194-1

TEL 0247-57-8677





達者の味噌

「達者の味噌」は、長年村で受け継がれてきた「石田味噌」の製法で作られています。「石田味噌」は大正14年に鮫川青年農業技師として赴任し、その後村長として村の発展に尽力した石田卯子八氏が考案した味噌です。通常同量で仕込む大豆と麴の割合を変え、麴を1.5倍にするとともに塩分濃度は一般より低い10%を目標として製造しています。



大豆製品

鮫川村産大豆を100%使用した大豆製品は、豆腐・味噌・納豆・豆菓子など種類豊富。「まめで達者な村づくり」の成果を味わってください！



鮫川ブランド

村の若手農業者が、地域の魅力を発信しようと結成した「さめがわプライド」。村を愛する気持ちで作ったオーガニック野菜や牛乳、バター、お米、卵、いちごなど、ぜひ手にお取りください。



鮫川村の大豆について

①大豆の栽培推奨(平成16年度～)

- 60歳以上の高齢者に種子代を補助(令和元年度～年齢制限廃止)
- 700円/kgを300円/kg(令和6年度～)で配布

②栽培者研修会を開催

- なるべく化学肥料、農薬を使わない栽培法を普及
- 全員が栽培記録を提出

③収穫機および、脱粒機を村で導入し収穫のお手伝い

- 色選別、粒選別も村で実施することで高品質の大豆を確保

④価格補償で全量買い取り

- 収穫の喜びが明日への(再生産の)意欲
- 汗に報いる価格補償
- 令和6年度の買入れ価格

大粒:600円/kg 小粒・紫斑:400円/kg
中粒:500円/kg <ず>:40円/kg

世界一高い?
買取額



半生うどん「一歩」

柔らかさとモチモチ食感が特徴のうどん。温めれば滑らかなのごしを、冷やせばコシのある歯ごたえを味わうことができます。

TEL 0247-49-2022
(社会福祉法人鮫川福祉会 鮫川たんぼの家)

イベント

鮫川花火大会

8月15日開催

約1,000発の花火を間近で楽しめる、鮫川の夏の風物詩です。当日は打ち上げ花火のほか、太鼓の演奏やサマーコンサートなども行われます。山あいに響く爆音と夜空を染める炎は迫力があります。



鮫川ふるさと春まつり

5月上旬開催

毎年ゴールデンウィークに開催される鮫川村の恒例行事。村内のさまざまな事業所や団体の露店が並び、体験アトラクションなど多彩なイベントが開催されます。



歴史



赤坂家長屋門

鮫川村指定有形文化財

長屋門は、代々渡瀬村の名主を務め、渡瀬村救荒修祭記碑を建てた赤坂氏によって建てられたものです。いつの時代に建てられたのかは不明ですが、観音寺修復のときの棟札が同家に残っており、そのお札に貞享3年(1686年)と記されていることから、それ以前に建てられたものであると推測されます。渡瀬村救荒修祭記碑もかつてはこの屋敷内にありましたが、昭和11年2月に渡瀬区に寄贈されました。

所 鮫川村大字渡瀬字木之根地内

渡瀬村救荒修祭記碑

鮫川村指定史跡文化財

天明3年(1783年)、渡瀬村は高冷地のため長雨の被害を受けて、稲は稔らず餓死者の屍が野にあふれました。村外に出て行く者も多く、150余りあった戸数が5分の1にまで減少したといえます。しかし村民は力を合わせて農地の復興に尽力し、寛政元年(1789年)は大豊作となって餓死者の骨を供養することができました。この碑はその事実を伝え、天災は予期しないときに来るため平素から備えなければならぬと後世の人々を戒めています。

所 鮫川村大字渡瀬字木之根地内



熊野神社飛翔獅子型狛犬

鮫川村指定有形文化財

熊野神社の狛犬は「飛翔獅子」と呼ばれる全国的にも珍しい構図で、雲に乗り、後ろ脚を大空に蹴り上げた躍動感あふれる姿をしています。卓越した彫刻技術で全国から高い評価を得ている石工・小松寅吉(1844年石川町生まれ、1915年没)が明治31年11月に造立したもので、この高度な技術と独創性は、旧高遠藩(長野県伊那市)の石工の系譜を引く師匠・小松利平から受け継がれたものだとされています。

所 鮫川村大字赤坂西野字名下地内



富田薬師堂

鮫川村指定有形文化財

木造薬師如来立像

福島県指定重要文化財

木造金剛力士像

福島県指定重要文化財



薬師堂は、いつの時代に建築されたのか不明ですが、寛文8年(1668年)に屋根を葺き替えた際に棚倉城主・内藤豊前守が寄進した棟札が残っているため、これ以前の建築であると思われます。堂内には、県指定重要文化財の木造薬師如来立像と木造金剛力士像が安置されています。

所 鮫川村大字富田字彦次郎地内

保育園留学®

保育園留学とは、1〜2週間、子どもを保育園に通わせながら、好きな地域に家族で滞在でき、その地域の暮らしを体験できる事業です。

鮫川村では、お子さんは「さめがわこどもセンター（幼保連携型認定こども園）」に通い、村の子どもたちと交流するとともに、保護者には宿泊先や村内施設においてリモートワークなどができるプログラムを実施しています。滞在中は農作業体験や星空観察などを通じて、村民や宿泊先のホストファミリーなどと触れ合い、村の魅力を感じていただくとともに、ご家族にとって新たな気づきや潤いにつながることも期待しています。

（保育園留学は株式会社キッチハイクの商標です。）



子ども

幼少期に大自然に触れ、心身ともに健やかに育つ環境を。



地域

家族ぐるみの長期的関係人口の創出や地域経済への貢献を。

保育園留学のメリット

保護者

仕事や子育てをしながら多様な選択肢を。



鮫川村の強み

1. 循環型農業など村の独自のエコシステムに触れることができる。
2. 生物多様性を身近に感じることができる。
3. 村ならではの疑似移住体験ができる。
4. こどもセンターの給食が、とても美味しい（自園給食で特別栽培米など村産材をふんだんに使用）。
5. 宿泊先で多様な農業・自然体験や村産材を使った食事を楽しめる。

（村独自の体験メニューを紹介）



鮫川村では、保育園留学に来た家族が、村の自然や伝統に触れ合う機会を設けるため、村独自の体験メニューを用意しています。



共通メニュー

- 村の循環型農業を学ぶ見学体験
- ファームつばさでの「乳しぼり体験」
- 鮫川源流探索体験
- 鹿角平天文台での星空観察

宿泊先ごとのメニュー

- 佐藤初女さんが伝えた“おむすび”作り（農家民宿まどろみ）
- 石窯ピザ焼き体験（ホホワイトハウス）

小学生向け体験メニュー

- ペットボトルロケットを飛ばそう！
- ミニミニキャンプ

体験メニューの一部です。詳細は村ホームページをご確認ください。

保育園留学の感想

体験メニュー

ジャージー牛の乳しぼり体験

Mさん

体験者情報

ご家族4人(子ども2人)

体験日

令和7年7月下旬



7月末に家族みんなで乳しぼり体験に参加させていただきました。牛舎に着くとオーナーさんが手を振って温かく迎えてくださいました。車を出ると標高が高いこともあり、真夏にもかかわらず少しひんやりしていて心地よかったです。

牛舎の中に入ると、1頭のジャージー牛のきなこちゃんが待っていました。オーナーの方に実際に乳しぼりしながらやり方を教えてくださいました。娘は恐る恐る手を伸ばして牛さんの乳首をつまんで引っ張るのですが、なかなか乳が出てきません。親指と人差し指の付け根で乳首の根元を挟み込むようにして引っ張るとよいよ！と教えてもらい、ようやく少しずつ乳が出てきました。

乳しぼりの後は、牛さんへの餌やりにも挑戦です。牧草を3頭の牛さんに与え始めると、20頭ほど寝そべっていた牛さんがみんな起きあがってきました。娘は怖がっていましたが、壮観な光景でした。

最後に、ファームつばさ特製のミルクアイスをいただきました。牛乳の濃厚な風味がとても美味しかったです。

体験後の車内で、白と黒の牛さんかと思っていた、牛ってもう少し小さいものだと思っていたと言っていました。乳しぼりは思っていたより難しかったですが、牛さんの大きさや力強さ、乳首の弾力、匂いを感じられる貴重な体験になりました。

保育園留学の感想

体験メニュー

源流探索体験

Nさん

体験者情報

ご家族4人(子ども2人)

体験日

令和7年8月中旬



鮫川の源流を見に行けるとのことで、インストラクターの齋須さんとコーディネーターの阿久津さんに道案内からいただきました。

最初は山登りのイメージで子供もいるし、大丈夫かな～なんて心配になっておりましたがハイキングコースほどの傾斜だったので疲れた子供を抱っこしながらでも、なんとかゴールまで行くことが出来ました！

道中イノシシが突進した跡なんかも見たり、要所要所説明を受けながらだったので道のりはあっという間でした。源流はチョロチョロ出るくらいの水で、それが大きな川になるのだと思うと見ていて感慨深かったです。子供2人（5歳・3歳）にとっては源流とは？という感じでなかなか理解は難しいと思いましたが、源流に触れたり、付近にいた小さいカエを見たり触ったりして子供たちなりに楽しんでおりました。帰りも子供たちはぐずったりすることもなく、楽しそうにお喋りしながら歩いておりました。

せっかくの経験でしたので少しでも子供の記憶に残っていたら嬉しいです。

「さめがわむらぶ」 みんな集まれ！ 鮫川村の部活動

村は更なる関係人口の創出・拡大を目的とした「さめがわむらぶ（関係人口創出アプリ）」を創設しました。「さめがわむらぶ」は「鮫川村（さめがわむら）」と「LOVE（ラブ）」を掛け合わせた造語で、村を応援したい人、村に関わりたい人であれば村内外にかかわらず誰でも入部可能です。

また、地域ポイント（地域通貨）の制度を導入しており、村内のスポットに設置されたQRコードを読み取ることでポイントが獲得できます。これは村民の皆さんが日頃より維持している村の素晴らしい景観を、村内各地のスポットを回りながら楽しんでもらえるようにしたものです。

「さめがわむらぶ」に入部して鮫川村を満喫しましょう！



登録方法 スマートフォンのカメラまたはLINEアプリのカメラで右のQRコードを読み込んで登録してください。

情報発信 さめがわむらぶLINE内で随時、村の情報を発信しています。

入部は
こちらから



会員特典 1

ポイントを貯めて賞品と交換できます

※所定のQRコードの読み取りが必要となりますので、店舗スタッフにお声がけください。

- ①入会特典 …… 新規入会特典として100P付与
- ②部活動に入部 …… サイト内にある部活動「写真部」「大豆部」「あそ部」「自然観察部」に入部で、それぞれ50P付与
- ③村に遊びに来る …… 村内の事業者・景勝地に設置されたQRコードを読み取りポイントを獲得

〈ポイント交換賞品〉

- 650P 手・まめ・館の味噌1kg
- 500P みんな 村民の店すまいるの商品券(500円分)
- 600P さざり荘入浴券
- 300P 手・まめ・館の商品券(300円分)

会員特典 2

協賛店舗で特典が受けられます

- ①農産物加工・直売所「手・まめ・館」… 1,000円以上お買い上げの場合、豆菓子1袋プレゼント
- ②お食事処温泉旅館「結び」… 700円以上のメニューを注文の場合、代金より50円引き
- ③村民保養施設「さざり荘」… カラオケルーム以外の個室利用料から500円引き

会員特典 3

村に生息する鳥の声が聞けます

さめがわに住んでいる、さめがわにやってくる、個性が光る色とりどりの鳥たちの特徴的な鳴き声を楽しむことができます。



鮫川村で暮らす

自然が多くて夏も過ごしやすい鮫川村では、のびのびした暮らしや子育てが実現できるはず。村内では若い就農者も活躍中。新たな村民をお待ちしています。

くわしくはコチラ！
鮫川村 支援制度



子育て

- 学校給食無償化
- さめっこすくすく祝い金
- 赤ちゃん絵本贈呈事業（はじめての絵本プレゼント）
- こども医療費助成
- 保育料第三子から無料
- 妊産婦医療費助成
- 乳幼児紙おむつ給付
- 子育て応援祝金



やまゆり保育室・乳児室

月に1度開催される子育てに関する相談・支援・交流の場 ※一時保育も実施

はたらく

- 起業／創業支援
- 新規就農支援



仕事を探す

- ハローワーク白河
- ふくしま生活・就職応援センター



教育

- 高校生通学支援金
- スクールバスの運行
- 外国語指導助手の配置
- ふるさとキャリア教育「さめがわ学」の実施
- 英検・漢検・数検の受験料支援



住まい

- お得な分譲地（20年住んで土地代無料）
- 戸建て中古住宅取得補助事業（移住者）
- 若年層定住促進補助事業（定住者）
- 浄化槽設置整備事業補助金

鮫川村宅地分譲地販売促進事業補助金

- 村内の請負業者に施工依頼で100万円を補助
- 義務教育修了前のお子さんがある場合1人につき10万円を加算して補助

移住者の声



いわさ しおり
岩佐 汐里さん

私は鮫川村の村を包み込むような緑と力強い川に惹かれて移住してきました。

村内の牧場でアルバイトをしながら、就農準備を進め、現在夢だった自分の牧場を持つことができ、乳牛を飼養しています。

知り合いが1人もいない土地に突然やってきた私にも、村の人は協力・応援してくれて、とても温かい村だと感じています。季節によって表情を変える大きな自然を感じながら、それらを守る一員として、これからも暮らしていきたいです。



さとう ひろき
佐藤 広基さん

昨年3月に家庭の事情もあり、地元で生活したいという思いからリターンしました。

現在はパソコン教室を開校し、IT関連の仕事しながら会社を経営しています。

犬の散歩中にふと訪れる完全な静寂、夜空に広がる満天の星、朝の澄んだ空気。こうした何気ない日常の瞬間に、ここでしか味わえない幸福を感じています。自分らしく、穏やかに生きられる場所。それが私にとっての鮫川村です。

■ 鮫川村の沿革



1 江竜田の滝



5 鮫川村農産物加工・直売所「手・まめ・館」



2 第1回高原の鮫川うまいもの祭り



3 館山公園



4 鮫川村役場庁舎



6 達者の味噌



7 村民保養施設 さざり荘



8 村民の店 すまいる



9 さめがわこどもセンター



11 国道289号渡瀬バイパス開通



10 お食事処・温泉旅館 結び



12 グッドライフアワード2024環境大臣賞(自治体部門)受賞

鮫川 DATA

世帯数や人口の移り変わり、子どもの数、産業ごとに取り組んでいる人数など、鮫川村の姿を表すさまざまなデータを集めました。



人口は少しずつ減り、近年は 2,700 人ほどとなっています。

●世帯数及び人口の推移

(各年 12 月 1 日現在)

区分 年次	世帯数	人口				人口密度 (1km ²)	備考
		総数	男	女	1世帯当たり		
平成 22 年	1,161 世帯	4,174 人	2,060 人	2,114 人	3.6 人	31.8 人	国勢調査
令和 2 年	1,080	3,245	1,646	1,599	3.0	24.7	//
3	1,001	2,964	1,492	1,472	3.0	22.6	現住人口調査
4	982	2,854	1,443	1,411	2.9	21.7	//
5	985	2,784	1,418	1,366	2.8	21.2	//
6	974	2,674	1,378	1,296	2.7	20.3	//

(資料：住民基本台帳)

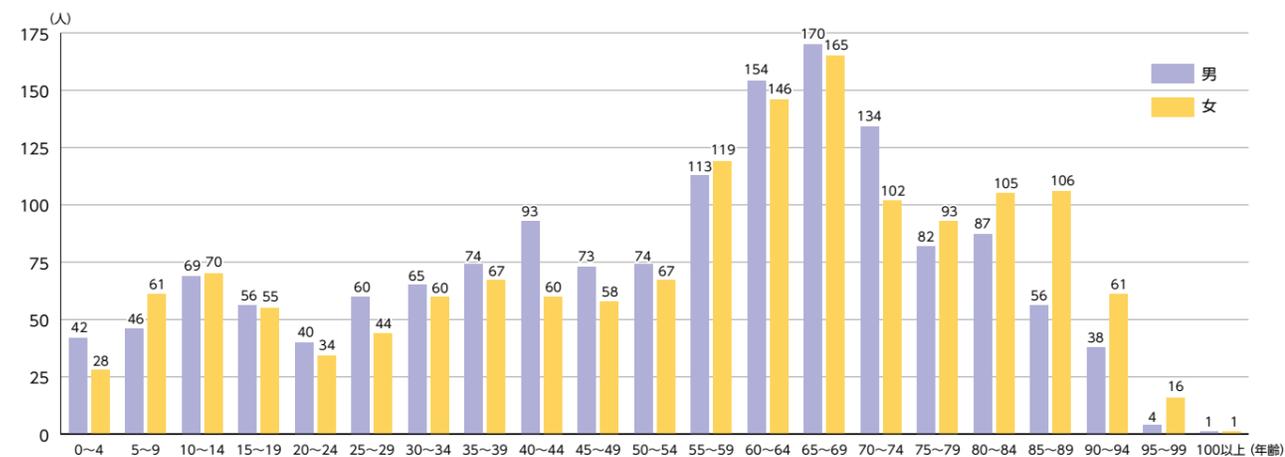
●人口動態

(単位：人)

区分 年次	自然増減			社会増減			増減
	出生	死亡	増減	転入	転出	増減	
令和元年	14	61	△ 47	47	94	△ 47	△ 94
2	14	59	△ 45	32	81	△ 49	△ 94
3	9	65	△ 56	31	75	△ 44	△ 100
4	10	69	△ 59	37	65	△ 28	△ 87
5	10	58	△ 48	61	74	△ 13	△ 61
6	9	60	△ 51	29	73	△ 44	△ 95

(資料：住民基本台帳)

●年齢5歳別人口構成



(令和2年国勢調査)



地球温暖化の影響を受け、近年の平均気温は 2℃程度上昇し、13℃程度となっています。

●気象

区分 年次	気温 (℃)			降水量 (mm)			日照時間
	平均	最高 (極)	最低 (極)	総量	日最大	起日	
令和元年	11.2	35.4	-9.8	1456.5	257.5	10/12	2043 時間 / 年
2	11.3	35.8	-10.0	915.5	72.5	1/29	2072 時間 / 年
3	11.0	34.0	-12.0	1436.5	58.0	7/28	1161 時間 / 年
4	11.0	34.5	-10.6	1105.5	66.5	9/24	機器不調のためデータ無し
5	13.6	40.0	-11.8	1003.0	97.0	9/4	//
6	13.8	39.1	-8.2	1206.0	59.0	7/12	//

(資料：農林商工課)



こどもセンターと小中学校で、約 210 人の子どもたちが学んでいます。

●学校別学級数と児童生徒数の推移

(各年 5 月 1 日現在)

区分 学校名	令和元年		2		3		4		5		6	
	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数
鮫川小学校	8	153人	8	148人	8	138人	8	127人	8	109人	8	104人
鮫川中学校	5	79	4	72	4	81	5	80	5	77	5	70

(資料：学校基本調査)

●幼稚園・小・中学校の現況

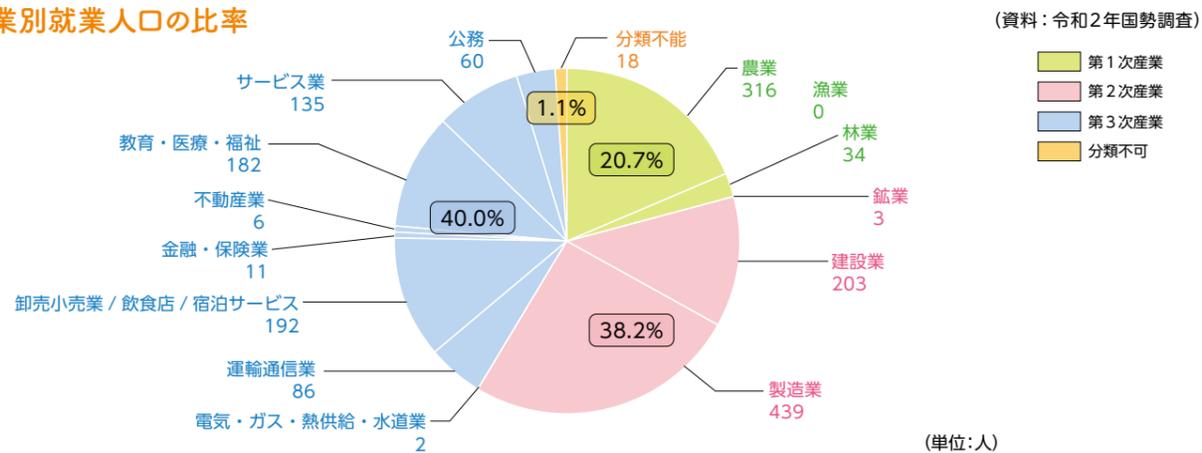
(令和6年5月1日現在)

園・学校名	学級数	園児・児童・生徒数			教員数	職員数	教員1人あたり 園児・児童・生徒数
		男	女	計			
こどもセンター (幼稚園)	4	28人	13人	41人	14人	5人	2.93人
鮫川小学校	8	52	52	104	12	1	8.67
鮫川中学校	5	30	40	70	12	2	5.83

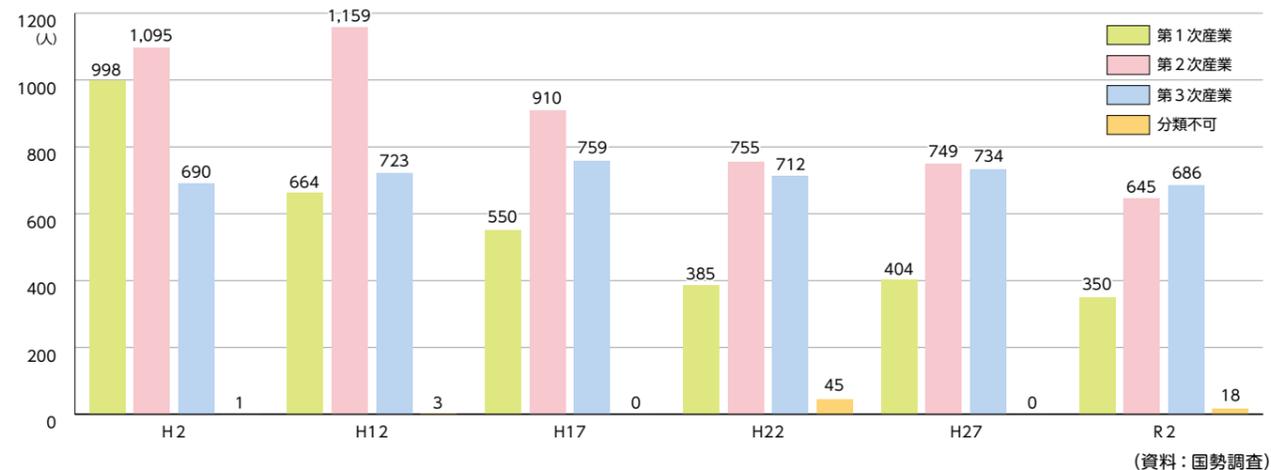
(資料：学校基本調査)

産業 第1～2次産業は縮小傾向にある一方、第3次産業は横ばいで推移しています。

●産業別就業人口の比率



●産業別就業人口の推移



●農家戸数

年次	区分	総戸数	農家戸数	農家率	専業農家		第1種兼業農家		第2種兼業農家	
					戸数	率	戸数	率	戸数	率
平成2年		1,112戸	815戸	73.3%	44戸	5.4%	154戸	18.9%	617戸	75.8%
7		1,107	778	70.3	37	4.8	110	14.1	631	81.1
12		1,093	683	62.4	61	8.9	56	8.1	566	81.4
17		1,110	621	55.9	69	11.1	43	6.9	509	82.0
令和2年		1,006	352	35.0	39	11.1	72	20.5	241	68.5

(資料：農林業センサス)

●経営規模別農家数

年次	区分	農家数	経営耕地区分						
			0.5ha未満	0.5～1.0	1.0～1.5	1.5～2.0	2.0～2.5	2.5～3.0	3.0ha以上
平成2年		815	116	230	246	144	48	17	14
7		778	137	256	231	92	37	12	13
12		753	134	264	214	82	27	14	18
17		621	65	230	183	70	34	18	21
令和2年		357	44	116	85	47	30		21

(資料：農林業センサス)

●村の工業

区分	事業所数	従業者数	製造品出荷額
平成25年	9カ所	255人	396,017万円
26	9	259	416,482
28	10	217	317,917
29	9	245	418,793
30	8	233	392,572
令和元年	8	240	372,246
2	8	178	364,741

(資料：経済センサス)

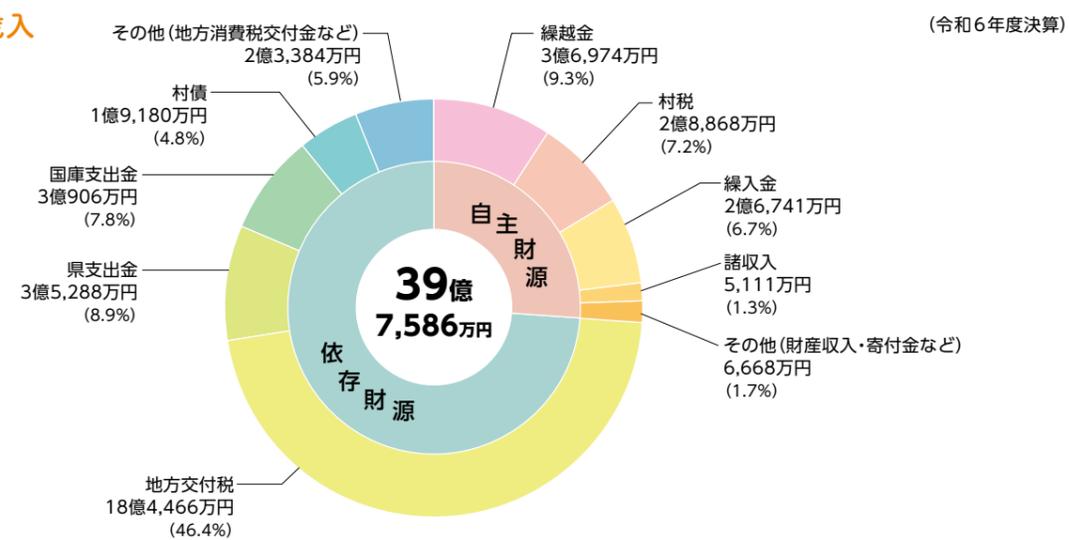
●村の商業

区分	商店数				従業者数	製造品出荷額
	年次	総数	卸売	小売		
平成3年	73店	2店	71店	—	179人	202,596万円
6	68	1	67	—	173	194,718
9	61	1	60	—	154	193,836
19	51	3	48	—	127	93,169
28	34	—	32	2	95	65,238
令和3年	37	2	29	6	112	174,500

(資料：経済センサス)

●一般会計 依存財源が多くを占めており、財源確保の重要性が求められます。

●一般会計 歳入



●一般会計 歳出

